

スイス再保険会社による「日本の保険の歴史」の 寄贈にあたって

2013年、世界有数の再保険会社であるスイス再保険会社（Swiss Re）より、『日本の保険の歴史』という1冊の本が発刊されました。

この年、2013年はスイス再保険会社にとって、創業150周年にあたりと同時に、日本との取引開始から100周年という節目の年でした。このことを記念して、同社ではあらためて日本の保険・再保険の歴史を研究し、この本の執筆・監修に取り組みました。

本書は、近代から現代に至るまでの社会の動きとともに、海外の視点から日本の保険の歴史を魅力的な筆致で解説しており、貴重な写真やデータも多数掲載されています。

このたび、同社のご厚意により、『Web 共済と保険』に本書をご寄贈くださり、本誌にて広く公開することをご快諾いただきました。今月の『Web 共済と保険』から5回にわたりシリーズで掲載していくとともに、今後はWeb内にライブラリーを新設し、この貴重な内容を今後いつでも閲覧できるようにしていく予定です。

あらためて、スイス再保険会社に心より感謝申し上げます。とりわけ、研究および執筆をご担当された Niels Viggo Haueter（ニールス・ヴィゴ・ハウター）氏に敬意を表するとともに、寄贈に際しご尽力いただいた若月洋人氏をはじめ、関係者の皆様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2025年11月

日本共済協会 専務理事 清 桂 司

編集長 古和田 博子

◆ 日本の保険の歴史（草創期編）



◆ シリーズ

日本の保険の歴史	
第1回	草創期編
第2回	試練の時代編
第3回	番外編
第4回	経済成長期編
第5回	バブル崩壊～現代編

出所：『スイス再保険会社による「日本の保険の歴史」の寄贈にあたって』に掲載のデザイン・写真・データ等はスイス再保険会社「日本の保険の歴史」より引用

■著者ニールス・ヴィゴ・ハウター氏より

【日本語翻訳】

スイス再保険会社による「日本の保険の歴史」の寄贈にあたって

保険は、私たち一人ひとりに深く関わる大切なものです。数多くの産業が社会のあらゆる人々と関わりがありますが、その中でも保険ほど幅広い社会的・経済的な課題に関わっている業界はほとんどありません。私たちの生活の細部にまで関わり、豊かで安心して暮らすこと、そしてお互いを支え合うことを可能にしてくれます。また、保険は経済全体にとっても重要で、保険という存在があるからこそ、農業や教育、交通、製造業、医療サービスといった私たちの生活に欠かせない分野が、今のように成り立っています。さらに保険は、経済活動の一分野であると同時に、「信頼」「連帯」「助け合い」という理念の上に成り立っている産業でもあります。したがって、皆様の共済事業にも受け継がれている「相互扶助」という考え方は、保険の世界において核となる意味を持っています。

スイス再保険は、再保険専門会社という立場から保険業界に貢献し、保険業界のレジリエンスを高めることで、ひいては世界全体をより強くするという役割を担っています。それは単に再保険契約に署名するだけでは実現できません。私たちが実践する再保険は「互いの支え合い」という基本的な概念のうえに成り立っています。互いを知り、信頼を築き、そして相互に恩恵をもたらす関係を築くには、長い年月をかけた協働が必要です。だからこそ、歴史には大きな意味があるのです。

長年にわたり、日本の社会に温かく受け入れていただいていることに、私たちは心から感謝しています。この「日本の保険の歴史」の寄贈を通じて、日本の皆様と築いてきた100年以上にわたる信頼の証をお伝えするとともに、共済事業が提供する独自の価値を大切に思っていることを示すことが出来れば幸甚です。

ニールス・ヴィゴ・ハウター

【著者のプロフィール】

ニールス・ヴィゴ・ハウター

ニールス・ヴィゴ・ハウター氏は、スイス再保険の会長室におけるコーポレート・ヒストリー担当上級顧問です。

ヨーク大学「グローバルビジネスと制度の進化センター」の研究員でもあり、これまでに一橋大学（東京）をはじめとする複数の大学で客員講師を務めました。かつては、フランクフルトにある「欧州銀行・金融史学会」の学術評議会副会長も務めています。

彼は再保険やリスクに関するテーマについて幅広く執筆しており、その中には『オックスフォード・リサーチ・エンサイクロペディア（ビジネス&マネジメント）』での再保険研究レビューも含まれます。2012年にはオックスフォード大学出版局（OUP）から World Insurance - The Evolution of a Global Risk Network を共編著として刊行し、2017年には Managing Risk in Reinsurance – From City Fires to Global Warming（OUP）を出版しました。

【原文】

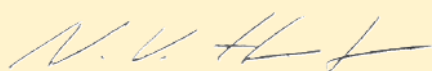
JCIA publication “Web Kyosai & Insurtrance” on SR's Japan Insurance History

Insurance matters to every one of us. There is hardly any industry that touches upon such a wide spectrum of societal and economic issues relevant to every individual member of society. It touches on virtually every aspect and detail of our existence. It allows us to lead secure lives, prosper, and provide for each other. Insurance matters to the economy and allows other vital industries to develop. Without insurance, agriculture, education, transport, production, medical services, and so many other vital branches of the economy would not be able to function the way they do.

And while insurance is an industry that has its place within the broader economy, it is, maybe more than any other business, still a concept built on a philosophy of trust, solidarity, and helping each other. Therefore, the idea of mutual support, as exemplified in your industry, is central to the insurance world.

As a professional reinsurer, Swiss Re has the privilege of serving the insurance community and making them more resilient so that they, in turn, can make the world more resilient. This cannot be done by simply signing a contract. The basic concept of reinsurance, as we practice it, is built on mutual support. It takes decades of working together to get to know each other and build trust and create mutual benefit. Therefore, we think that history matters.

We are grateful for the many years that we have been welcome in your society. With this brief history of insurance, we hope to provide a testimony to over a century of trust that we have enjoyed in Japan and show that we care about the unique value proposition that the Kyosai sector offers.



Niels Viggo Haueter

【CV】 Niels Viggo Haueter

Niels Viggo Haueter is Senior Advisor Corporate History to Chairman's Office at Swiss Re.

He is an affiliate at the University of York's Center for Evolution of Global Business and Institutions. He was a guest lecturer at several universities including Hitotsubashi in Tokyo. He formerly served as deputy Chairman of the Academic Council at the European Association for Banking and Financial History in Frankfurt.

He has published widely on reinsurance and risk topics, including reviews of reinsurance research for the Oxford Research Encyclopedia on Business & Management. He co-edited World Insurance - The Evolution of a Global Risk Network, published by Oxford University Press (OUP) in 2012 and Managing Risk in Reinsurance – From City Fires to Global Warming (OUP, 2017).



■ 第1回 (2025年11月号) <草創期編>



保険の取組み：驚異的な発達を見せた日本市場

日本は、明治維新を機に、保険の思想を吸収した。保険の普及は、的確な決断のもと、競争もつやがなくなるほどの効率をもって進み、他の国より早く国内市場を確立した。今では、海外へも展開し、世界で大きな役割を果たす能力を持つ多くの保険会社を創り上げた。

明治維新の初期、西洋の船隻が日本に上陸し、火災保険のサービスを始めた。これは、日本に近代化をもたらすための重要な一歩であった。この頃、日本の政府は、外国の保険会社を規制し、国内の保険会社を設立することを奨励した。1875年に、日本初の火災保険会社である「火災海上保険株式會社」が設立された。これは、日本の保険市場の発展の始まりであった。

明治維新の初期、西洋の船隻が日本に上陸し、火災保険のサービスを始めた。これは、日本に近代化をもたらすための重要な一歩であった。この頃、日本の政府は、外国の保険会社を規制し、国内の保険会社を設立することを奨励した。1875年に、日本初の火災保険会社である「火災海上保険株式會社」が設立された。これは、日本の保険市場の発展の始まりであった。

保険の取組み：驚異的な発達を見せた日本市場

日本は明治維新を機に保険の思想を吸収し、保険の普及は的確な決断のもとで効率的に進み、他の国よりも早いスピードで国内市場を確立しました。

■ 第2回 (2025年12月号) <試練の時代編>



1945年に至るまでの保険市場

日本における最初の保険会社が設立されてから20年余りが過ぎた1900年代には、国内保険会社は、確固たる地位を築き、海外へと進出した。

一方、日本の保険市場は、さもなくば試練に直面することになった。まず、自然災害に起因する被害をもたらした関東大震災が顕著な例として、企業活動、そして二度の世界大戦が顕著な例として、日本の保険市場は、こうした試練に直面することになった。関東大震災は、1923年に発生した大規模な地震であり、日本に深刻な被害をもたらした。この災害は、日本の保険市場に大きな打撃を与えた。多くの企業が倒産し、多くの人が死亡した。これは、日本の保険市場にとって大きな試練であった。

この試練に直面した日本の保険市場は、1923年の関東大震災を契機として、海外市場へと進出した。これは、日本の保険市場の発展の重要な一歩であった。1923年の関東大震災は、日本に深刻な被害をもたらした。この災害は、日本の保険市場に大きな打撃を与えた。多くの企業が倒産し、多くの人が死亡した。これは、日本の保険市場にとって大きな試練であった。

1945年に至るまでの保険市場

日本で最初の保険会社設立から20年余りが過ぎた1900年代、日本の保険会社は確固たる地位を築き、海外へ進出してきました。

関東大震災、世界恐慌、二度の世界大戦という試練に直面した当時の状況と再保険の関与について紹介します。

